菊池事件 再審請求にむけて
ハンセン病を考える

映画
「新・あつい壁」

★★★★★★★★★★★★★

1月17日
土曜日 19:00PM
@東村山サンパルネ

★★★★★★★★★★★★★

https://onishi.tokyo/all/2514.html

入場無料

**席に限りがございますのでWebより
お申込みください。**

東村山市市民ステーション
「サンパルネ」

〒189-0022
東村山市野口町1-46
ワンズプラザ2F
TEL：042-395-5115

■電車でのアクセス：東村山駅西口から 徒歩1分
■自動車・自転車でのアクセス：駐車場・駐輪場あり

★★★★★★★★★★★★★★★

第一部：政務報告会

18:10　開場
18:20　鈴木たつお東村山市議会議員議会報告会

～18:50～19:00 休憩～

**第二部：映画「新・あつい壁」を見て
菊池事件を考える**

19:00　講話
　中山節夫 【新・あつい壁 監督】
　石渡ゆきこ【港区議会議員・弁護士】
19:30　上映(110分)
21:30　終了

★★★★★

主催 国民民主党 こくみん
東京都第20区総支部

**国民民主党
東京都第20区総支部**
〒189-0013 東京都東村山市栄町2-20-10-301
TEL 042-315-7399　contact@kokumin.tokyo　https://kokumin.tokyo/

映画「新・あつい壁」上映にあたり

国民民主党 東京都第20区 総支部長
大西けんたろう

私は教育現場に16年おりましたが、私自身がハンセン病について詳しく知る事になったのは、国立ハンセン病資料館にて開催された教員向けの多磨全生園史跡ガイドツアーに参加をさせていただいたのがキッカケでした。その後、何度か全生園に行かせていただき、港区議会議員であり弁護士でもある石渡区議からのお声がけをいただいたことを機に、今回全生園のある東村山市にて『新・あつい壁』の映画上映をさせていただく運びとなりました。この映画上映をキッカケに、まずは皆様に菊池事件のこと、そしてハンセン病に対する差別について考えていただければ幸いに存じます。何卒よろしくお願いいたします。

※東京都第20区：東村山市.東大和市.武蔵村山市.東久留米市.清瀬市

石井智恵【衆議院議員】

私は短大の看護科の時に岡山県の長島愛生園に伺い当時の隔離政策に強い衝撃を受け、現在はハンセン病療養所世界遺産登録に向けた活動に関わらせて頂いています。この映画で多くの方にハンセン病によって不当な差別を受けた方の現状を知って頂きたいと思います。

石渡ゆきこ
【港区議会議員・弁護士・ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会(東京担当)】

菊池事件は、弁護士会も、重大な人権侵害に加担した痛恨の事実があります。
ハンセン病問題の完全解決には、菊池事件の再審無罪、Fさんの名誉回復抜きにあり得ません。
映画を見て、どうぞ、菊池事件を知って下さい。

中山節夫監督

【プロフィール】

1937（昭和12）年、熊本県菊池郡合志村（現合志市）生まれ。1970年、熊本で起きた龍田寮事件を題材とした「あつい壁」で映画監督デビュー。ハンセン病差別を正面から採り上げた本作品は、大きな話題となった。2007年、70歳の年に菊池事件を採り上げた新作「新・あつい壁」を撮影。

劇映画「新・あつい壁」は、ハンセン病患者であることを理由に、法の前の平等を踏みにじられた50年以上も前の事件を通して。それを許した当時の社会の意識が、今日どのように変わったのか、そして何が変わらないのかを描きました。

解説・あらすじ

デビュー作「あつい壁」でハンセン病患者とその家族に対する差別の実態を浮き彫りにした中山節夫監督が、実在の事件を基に再びハンセン病問題を描いた作品。ルポライターの卓也は、取材で知り合ったホームレスの男性から、50年前に熊本で起きた殺人事件の話を聞かされる。犯人として捕らえられたハンセン病患者の男性は、裁判で無実を訴えながらも死刑に処されていた。事件を記事にしようと考えた卓也は、取材のために熊本を訪れるが……。

菊池事件とは

元役場職員が殺害された事件について、ハンセン病患者として報告されたことを恨みに思っていたハンセン病患者が事件を起こしたものとして、起訴された事件です。ハンセン病を理由として裁判所ではなく、医療刑務所内で刑事裁判が行われて死刑判決がされ、１９６２年に死刑が執行されています。この裁判については、有罪の根拠とされた凶器や証言などの評価のみならず、裁判所がハンセン病を理由として差別的な取り扱いを行ったことが問題となっています。